

やまなしの

# か

【果】



山梨市

## フルーツ王国山梨で出会う、若き農家の夢と挑戦 山梨市

「中央道から見る、桃やぶどうの畑がパーッと広がる風景って、世界遺産にしてもいいくらいきれいですよね」と話すのは、フルーツ農園カノハタの園主、松崎一裕さん。松崎さんは、パン職人として東京で働いていたが「お天道さんを見られる仕事がしたくなって」、10年ほど前に山梨に単身移住し、フルーツ農園で働きながら果実栽培を学び独立。今は、山梨で出会いの伴侶となった智美さん、両親とともに果物づくりに取り組み、産直で販売している。荒地から開拓したという農園は、甲府盆地の絶景を見下ろす山の南斜面にあり、桃畑とぶどう棚が広がっていた。「ぶどうって、自然にあのきれいなかたちになるわけじゃなくて、完成形を予想して一粒ずつつくり込むんです」と教えられ、その手間に改めて驚く。農園では、果実



栽培の師匠から教わった、ぶどうの実の列が揃う「新短梢栽培<sup>しんたんしょう</sup>」を導入したり、「非効率だ」と揶揄されながらもあえて12、3種のぶどうを植えて可能性を探っている。「将来は、ここに直売所をつくって顔を見ながら販売したい。何より、若い人にもっと食べてほしいから、値段を抑える工夫や努力を惜しみません」。お金を出せば美味なものも簡単に手に入る。しかし、だからこそ作り手の情熱や思いを感じられるおいしさは特別で、それは、ほんとうの豊かさに通じるように思う。

**N** 夢だったドライフルーツづくりにも挑戦中  
カノハタ

**Note** ぶどうジュースなどの加工品は在庫があれば直送可。  
季節の果実は通常毎年6月～8月に予約を受付。  
お問い合わせ ☎090-2304-3756 FAX.0553-23-1772  
<https://www.facebook.com/Kanohata/> ※Facebookよりのお問い合わせは、お時間がかかる場合があります。



山梨では、平安時代のぶどう栽培に起源を發し、江戸時代には「甲州八珍果(林檎、柿、石榴、栗、葡萄、梨、銀杏もしくは胡桃)」が時の将軍に献上されたという。カノハタとは、「果物の畑」「彼(か)の畑」から名付けたそう。かつめま朝市(P16)に出店し、桃やぶどうのジュースや加工品、最盛期には収穫した果物も販売する。「特別なこだわりはない」と構えながらも「果実栽培は木を育てること。そこがおもしろい」と目を輝かせる。

